

2025 年 11 月 30 日

主日礼拝

《礼拝》

讃美歌⇒96 番（MK 姉）

『エサいの根より』

聖書⇒ミカ書 5 章 1~4a 節（MM 姉）

『エフラタのベツレヘムよ／

お前はユダの氏族の中でいと小さき者。

お前の中から、わたしのために／

イスラエルを治める者が出る。

彼の出生は古く、永遠の昔にさかのぼる。

まことに、主は彼らを捨ておかれる／

産婦が子を産むときまで。

そのとき、彼の兄弟の残りの者は／

イスラエルの子らのもとに帰って来る。

彼は立って、群れを養う／

主の力、神である主の御名の威厳をもって。

彼らは安らかに住まう。

今や、彼は大きいなる者となり／

その力が地の果てに及ぶからだ。

彼こそ、まさしく平和である。』

（祈り）

礼拝讃美歌⇒80 番（旧 259 番）

『御神の栄えは』

聖書⇒ヨハネの手紙一 4 章 16~19 節 (KT 姉)

『わたしたちは、わたしたちに対する神の愛を知り、また信じています。神は愛です。愛にとどまる人は、神の内にとどまり、神もその人の内にとどまってください。こうして、愛がわたしたちの内に全うされているので、裁きの日に確信を持つことができます。この世でわたしたちも、イエスのようであるからです。愛には恐れがない。完全な愛は恐れを締め出します。なぜなら、恐れは罰を伴い、恐れる者には愛が全うされていないからです。わたしたちが愛するのは、神がまずわたしたちを愛してくださったからです。』

聖書⇒ヨハネの手紙一 5 章 13~15 節

『神の子の名を信じているあなたがたに、これらのことを書き送るのは、永遠の命を得ていることを悟らせていからです。何事でも神の御心に適うことをわたしたちが願うなら、神は聞き入れてくださる。これが神に対するわたしたちの確信です。わたしたちは、願い事は何でも聞き入れてくださるということが分かるなら、神に願ったことは既になえられていることも分かります。』

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 13 章 4~10、13 節

『愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。

礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。

不義を喜ばず、真実を喜ぶ。

すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。

愛は決して滅びない。預言は廃れ、異言はやみ、知識は廃れよう、

わたしたちの知識は一部分、預言も一部分だから。

完全なものが来たときには、部分的なものは廃れよう。

それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。

その中で最も大いなるものは、愛である。』

(祈り)

礼拝讃美歌⇒100 番 (旧 51 番) (KH 兄)

『造り主は』

《パン裂き》

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 11 章 23~26 節 (KH 兄)

『わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、「これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。また、食事の後で、杯も同じようにして、「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。』

(式)

礼拝讃美歌⇒142 番 (旧 58 番)

『渡されたもう』

《建徳》

聖書⇒ルカによる福音書 17 章 5~10 節 (EK 兄)

『使徒たちが、「わたしどもの信仰を増してください」と言ったとき、主は言われた。「もしあなたがたにからし種一粒ほどの信仰があれば、この桑の木に、『抜け出して海に根を下ろせ』と言っても、言うことを聞くであろう。あなたがたのうちだれかに、畑を耕すか羊を飼うかする僕がいる場合、その僕が畑から帰って来たとき、『すぐ来て食事の席に着きなさい』と言う者がいるだろうか。むしろ、『夕食の用意をしてくれ。腰に帯を締め、わたしが食事を済ますまで給仕してくれ。お前はその後で食事をしなさい』と言うのではなかろうか。命じられたことを果たしたからといって、主人は僕に感謝するだろうか。あなたがたも同じことだ。自分に命じられたことをみな果たしたら、『わたしどもは取るに足りない僕です。しなければならないことをしただけです』と言いなさい。』

聖書⇒マルコによる福音書 10 章 35~40 節

『ゼバダイの子ヤコブとヨハネが進み出て、イエスに言った。「先生、お願いすることをかなえていただきたいのですが。」イエスが、「何をしてほしいのか」と言われると、二人は言った。「栄光をお受けになるとき、わたしどもの一人をあなたの右に、もう一人を左に座らせてください。」イエスは言われた。「あなたがたは、自分が何を願っているか、分かっている。このわたしが飲む杯を飲み、このわたしが受ける洗礼を受けるこ

とができるか。」彼らが、「できます」と言うと、イエスは言われた。「確かに、あなたがたはわたしが飲む杯を飲み、わたしが受ける洗礼を受けることになる。しかし、わたしの右や左にだれが座るかは、わたしの決めることではない。それは、定められた人々に許されるのだ。』

聖書⇒フィリピの信徒への手紙 2 章 6~11 節 (KH 兄)

『キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。こうして、天上のもの、地上のもの、地下のものがすべて、イエスの御名にひざまずき、すべての舌が、「イエス・キリストは主である」と公に宣べて、父である神をたたえるのです。』

聖書⇒マタイによる福音書 1 章 21~23 節

『マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。』このすべてのことが起こったのは、主が預言者を通して言われていたことが実現するためであった。「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。』

聖書⇒マタイによる福音書 28 章 20b 節

『わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。』

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 3 章 16 節

『あなたがたは、自分が神の神殿であり、神の霊が自分たちの内に住んでいることを知らないのですか。』

聖書⇒ヨハネの黙示録 21 章 3~4a 節

『そのとき、わたしは玉座から語りかける大きな声を聞いた。「見よ、神の幕屋が人の間にあって、神が人と共に住み、人は神の民となる。神は自ら人と共にいて、その神となり、彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってくださる。』

聖書⇒創世記 5 章 24 節

『エノクは神と共に歩み、神が取られたのでいなくなった。』

聖書⇒ルカによる福音書 24 章 25~27 節

『そこで、イエスは言われた。「ああ、物分かりが悪く、心が鈍く預言者たちの言ったことすべてを信じられない者たち、メシアはこういう苦しみを受けて、栄光に入るはずだったのではないか。」そして、モーセとすべての預言者から始めて、聖書全体にわたり、御自分について書かれていることを説明された。』

聖書⇒ルツ記 2 章 20c~20d 節 (NH 兄)

『「その人はわたしたちと縁続きの人です。
わたしたちの家を絶やさないようにする責任のある人の一人です。」』

聖書⇒レビ記 25 章 25 節

『もし同胞の一人が貧しくなったため、自分の所有地の一部を売ったならば、それを買い戻す義務を負う親戚
が来て、売った土地を買い戻さねばならない。』

聖書⇒ルツ記 4 章 10 節

『また、わたしはマフロンの妻であったモアブの婦人ルツも引き取って妻とします。故人の名をその嗣業の土地に再興するため、また故人の名が一族や郷里の門から絶えてしまわないためです。あなたがたは、今日、このことの証人になったのです。』

聖書⇒マタイによる福音書 1 章 5~6a 節

『サルモンはラハブによってボアズを、**ボアズはルツによってオベドを、**
オベドはエッサイを、エッサイはダビデ王をもうけた。』

聖書⇒ヨハネの黙示録 21 章 2 節

『更にわたしは、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように用意を整えて、神のもとを離れ、天から下って来るのを見た。』

聖書⇒ルカによる福音書 10 章 20 節

『しかし、悪霊があなたがたに服従するからといって、喜んではならない。
むしろ、あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。』

礼拝讃美歌⇒355 番 (旧 304 番) (KH 兄)

『主は命を』

《建徳要旨》